

“わたしのまち”

富嶽三十六景 凱風快晴（部分）



墨田区

開館間近！すみだ北斎美術館

「帰ってきた セカイの北斎」

平成28年11月22日、墨田区亀沢に「すみだ北斎美術館」がいよいよオープンします。世界の偉大な芸術家「葛飾北斎」の生地での美術館の開館に、区内の人だけでなく多くの北斎ファンにとって、待ちに待った開館になります。今回の記事では、すみだ北斎美術館のまどころやコレクション、9月23日の葛飾北斎生誕日に合わせて開始されるイベント「隅田川 森羅万象 墨に夢」などの情報を取り上げます。

「すみだ北斎美術館」開館間近

すみだ北斎美術館は、平成28年11月の開館に向けて着々と準備が進んでいます。美術館の建物は既に同年4月28日にしゅん工しており、6月には内覧会が実施されました。6月12日には地元の人を対象に、18日と19日の2日間是一般の人を対象に、それぞれ建物見学会が行われ、あわせて2000名を超える人が来場し、開館への期待の高さが感じられました。

もともと、葛飾北斎の美術館のプロジェクトは平成元年に構想が始まり、平成6年には北斎の作品や資料を展示する美術館開設に向けた、さまざまな検証や計画が行われてきました。その後、平成18年3月に東京スカイツリー

の建設地が墨田区に決定したことを契機に、「墨田区基本計画」のリーディングプロジェクトとして明示されました。しかし、平成23年3月の東日本大震災により、設計の見直しや財政面等の影響を受けるなどさまざまな障壁が発生しました。それらを乗り越え、この度の美術館の開館に至りました。

すみだ北斎美術館では第一級作品を数多く収蔵していますが、特筆すべきものとして、世界有数の北斎作品収集家であり研究家の故ビーター・モース氏のコレクションや日本の北斎研究の第一人者である故樋崎宗重氏から寄贈された貴重な資料があります。

特に故ビーター・モース氏は日本国

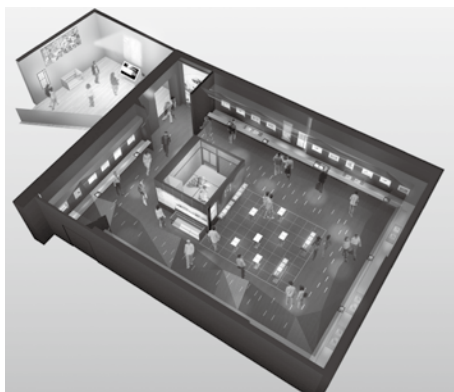


葛飾北斎の肖像画
(溪斎英泉画)

スリットの入った建物はどの方向からでも建物に入ることが出来る



常設展示室では、生誕から晩年までの北斎の生涯に沿って、年代ごとの代表作やすみだの関わりが紹介される



◆斬新な外観デザイン
最初に来館して驚くのが、美術館の斬新な外観です。アルミパネルで覆われた外壁には、下町の風景が映り込み、圧迫感を与えず周辺のまちに溶け込むよう考えられています。北斎の作風のように、これまでの常識にとらわれな

い新しさを取り入れた点が大きな特徴です。近未来的なデザインながらも、建物はスリットで分割され、訪れた人は隣接する緑町公園や地域のどこからでも気軽に立ち寄ることが出来る構造になっています。6月の建物見学会の際に、見学した

すみだ北斎美術館のまどころ、コレクション

内での北斎美術館の開館を希望していたといいます。平成5年に急逝された際、そのコレクションの散逸を惜しんだ遺族が故モース氏の意向や区の美術館計画へ理解を示されたことから、総数600点近い所蔵資料を墨田区へ一括して譲り渡されたことにより、多く

の貴重な資料が美術館に保有されることになりました。現在は、総数約1500件の北斎作品を保有しています。そのコレクションの数々が揃うすみだ北斎美術館の概要を見ていきましょう。

来場者からは斬新なデザインへの驚きの声や公園とつながる開放的な構造についての評判が聞かれました。

◆開館、注目の展示

開館記念展として「北斎の帰還―隅田川両岸景色図巻と名品展」(仮)を開催予定です。展示の目玉となるのは「隅田川両岸景色図巻」です。北斎が隅田川周辺の景色を詳細に描いた作品で、壮年期の傑作として注目されていましたが、明治期より100年以上の間、所在不明とされていた幻の肉筆画です。

図巻は長さ約7メートルの作品で、両国橋や吾妻橋を中心に隅田川両岸の風景などが描かれているほか、遊郭・吉原の室内の様子などが描かれています。

開館記念展の後にも、最新の調査研究に基づきながら、北斎を中心としたさまざまなテーマで多彩で魅力ある企画展が開催されます。常に北斎のさまざまな作品に出会えるのも大きな楽しみの一つと言えます。

◆常設展示

常設展示室では、北斎とすみだの関わり、生誕から晩年までの生涯、そして年代ごとの代表作(高精細レプリカ)等が紹介される予定です。

多くの支援者に支えられている「すみだ北斎美術館」

墨田区では、平成26年度より「すみだ北斎美術館」寄付キャンペーンを実施しています。「すみだ北斎美術館」を通じて、墨田区をより元気にしたいと考え、また、北斎とつながる“アート”や“ものづくり”を通じ、地域での新しい交流の創出やまちの活性化の実現、情報発信といった新たな取組に対し「墨田区北斎基金」を設置し、キャンペーンが行われてきました。また、キャンペーンの一環としてふるさと納税による寄付も募集されました。

その結果、多くの支援者の協力が得られ、現在「墨田区北斎基金」には目標額5億円に対し、約4億5000万円もの寄付が集まっています。これら寄付金は、美術館の建設、開館後の展覧会事業などの充実のために活用されます。

6月に行われた建物見学会には多くの人が参加した



近隣の保育園児を対象に行われたワークショップ。北斎の塗り絵を楽しんだ



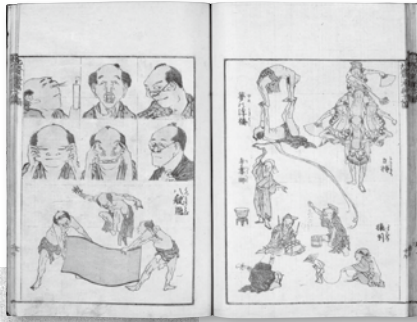
展示方法についても工夫が施されます。例えば、映像端末を使って知識を深



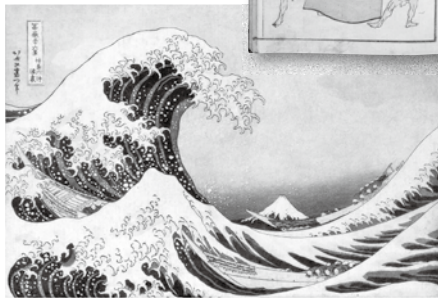
コレクションの一部

(北斎作品は全て墨田区蔵)

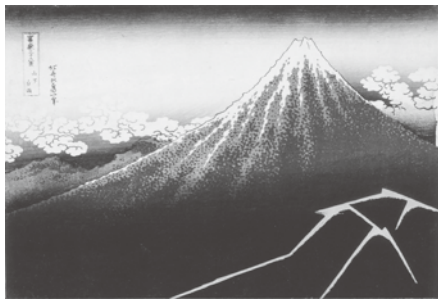
北斎漫画



富嶽三十六景
神奈川沖浪裏



富嶽三十六景 山下白雨



桜花に鷹



めたり、『北斎漫画』の特定のページだけを展示するのではなく、同端末を活用して全体的なページ内容が見られるようになるといった点です。来館者が北斎その人や作品に対して持つ興味に答えたり、見て、触れて、体感できるような、いわば博物館的要素が含まれた展示内容も予定され、気軽に北斎の作品に親しむことができます。

◆ワークショップ、講座

すみだ北斎美術館では、ワークショップや講座、シンポジウムの開催も予定されています。

平成28年7月11日には、美術館の近隣保育園の園児を対象に、開館前の1階講座室が当日限定で開放され、北斎作品に塗り絵をするワークショップが開催されました。

園児たちに北斎及び美術館を知ってもらうために実施されたもので、用意された「富嶽三十六景 凱風快晴（通称…赤富士）」の塗り絵に、園児たちは思い思いの色を塗って楽しんでいました。

今後、美術館では北斎や江戸時代のすみだをキーワードとした講座、こど

も向けワークショップの開催、学校への作品（レプリカ）の貸し出しなど、教育普及、文化・創造活動の支援を行う予定です。

また、北斎や門人の作品、北斎とす

今後の展望、開催イベントの紹介

区内では、11月の美術館開館に向けてさまざまなイベントの実施や企画が予定されています。

平成28年6月19日には、区立錦糸公園で「すみだ北斎美術館開館記念プロジェクト」の一環として「区民ボランティア」と「緑と花のサポーター」のあわせて22名により、縦2・3メートル、横5メートルの大きなフラワースタート「富嶽三十六景 凱風快晴」が再現されました。

今後のイベントとして注目を集めるのが、葛飾北斎生誕日の9月23日より2ヶ月間実施される「隅田川 森羅万象 墨に夢」です。すみだ北斎美術館の開館を一つの契機に、地域の魅力を発見し、楽しみ、さまざまな表現活動を生み出す人たちをつなぐプロジェクトとして行われます。

内容は、北斎や隅田川を始めとする

みだの関わりについての調査研究活動の拠点としても大きな期待が寄せられており、その研究成果が、企画展や講座、シンポジウムの開催等を通じて広く発信される予定です。

墨田区の地域資源を生かした企画、区民が主体的に関わる独創的な取組が対象となっています。現在、選定された38の企画の準備が進められており、秋には区内のさまざまな場所でイベントを楽しむことができます。

区内には、すみだ北斎美術館のほか、江戸東京博物館を始めとする十数カ所の博物館、墨田区の産業や文化に関連する製品、道具、文献・資料などのコレクションが展示される「小さな博物館（3M）」、すみだ水族館、企業の博物館など多くの見どころがあります。気候も良くなる芸術の秋にあわせて区内の美術館・博物館巡りをするのも楽しいですよ。



「隅田川 森羅万象 墨に夢」のロゴマーク。秋からのイベントが楽しみです